秋田大学＜郷土の音楽素材ライブラリ＞

《秋田の作曲家たち－先人の音の遺産を辿る》

第1回 9月18日(土)
会場：仙北市立角館町平福記念美術館 —樺細工でよみがえった奇跡のピアノとともに—

小松耕輔／奏鳴曲ト長調　母　泊り舟
成田為三／かなりや　古戦場の秋　秋田縣民歌
　　秋田おばこ　ほか
　　（クラリネット四重奏／佐川馨編）
斎藤佳三／ふるさとの
平岡均之／若葉　みんなで海へ行こう
後藤惣一郎／から松

佐川　馨（解説）
斎藤　洋・西川　香（ピアノ）
爲我井壽一（テノール）
安藤　満里・京野　直行（クラリネット）
虫明　優美・阿部　哉子（クラリネット）
羽澤　知子・最上絵里花（ソプラノ）

第2回 10月16日(土)
会場：仙北市立角館町平福記念美術館
—樺細工でよみがえった奇跡のピアノとともに—

小田島樹人／桔梗
成田為三／秋～月を仰ぎて　浜辺の歌
　　望郷の歌　木の洞　安房にて
黒澤隆朝／子守唄
深井史郎／出舟
石田一郎／黄昏のりんご畑　遠い祭
　　牧歌　子守唄
菅原良昭／県民の歌

佐川　馨（解説）
斎藤　洋（ピアノ）
爲我井壽一（テノール）
小野　真弓（ソプラノ）
滝口　綾美（ハープ）

第3回 11月27日(土) 会場：秋田大学インフォメーションセンター

小松耕輔／砂丘の上
小田島樹人／赤いそり　おもちゃのマーチ
成田為三／浜辺の歌変奏曲　清怨　赤い鳥小鳥
　　浜辺の歌（トロンボーン四重奏
　　／名取牧人編）
黒澤隆朝／びら　山の音楽家（訳詞）
斎藤佳三／春ゆえに
露木次男／馬追手綱
深井史郎／動物園
石田一郎／山なみとおく
佐川馨・三浦真理編／成田為三と石井歓への
　　オマージュ《秋田縣民歌》

佐川　馨（解説・トロンボーン）
斎藤　洋・近藤美穂子（ピアノ）
爲我井壽一（テノール）
羽澤　知子・最上絵里花（ソプラノ）
佐々木　渉・米澤　怜緒（トロンボーン）
児玉　祐佳（トロンボーン）

企画・構成
佐川　馨

2010年　9月18日(土)　10月16日(土)　11月27日(土)
13:30開場　14:00開演［15:00終演予定］
入場無料

美術館やインフォメーションセンターの常設展示物をごらんください。当日は，秋田県出身および関連の作曲家の楽譜，資料等の特別展示も行っております。（美術館の企画展・常設展は有料です。）

主　催・お問合わせ：秋田大学〈郷土の音楽素材ライブラリ〉 TEL 018-889-2566（佐川）
協　力：Otoを楽しむ会　仙北市立角館町平福記念美術館
〒014-0334　秋田県仙北市角館町表町上丁4-4　TEL 0187-54-3888
JR角館駅より徒歩25分、国道46号沿い角館武道館後ろに駐車場あり

秋田大学〈郷土の音楽素材ライブラリ〉では、秋田県出身および関連の作曲家や秋田県の音楽教育活動にかかわる資料や情報を収集しています。楽譜はもちろん、書籍、演奏会プログラム、写真等、どのようなものでも構いませんのでご協力をお願いいたします。

この演奏会は科学研究費補助金（21530971）の助成を受けたものです。

秋田大学〈郷土の音楽素材ライブラリ〉とは

—音楽素材の地産地消を目指して—

秋田大学〈郷土の音楽素材ライブラリ〉は，日本学術振興会の科学研究費補助事業として取り組まれている「郷土の音楽素材の教材開発と大学教員のアウトリーチによる実証的研究」（基盤研究(C)21530971）の一環として2009年に設立されました。

主な取り組みは，秋田県にかかわる作曲家の作品や著作及び民俗芸能の映像資料等の収集と教材開発によるライブラリを設置し，それらを活用して大学教員が学校や地域のために出前授業やレクチャー・コンサートなどのアウトリーチ活動を行ったり，楽譜やCD等の研究成果の発表を行ったりするというものです。

そのため，秋田県内各地域の「郷土の音楽素材」を，次の三つに分類して資料収集や教材開発をするとともに，開発した教材を用いた授業実践によってその有効性を検証しています。

①伝統音楽的音楽素材（民謡，お囃子，わらべうたなど）
②西洋音楽的音楽素材（明治以降の秋田県関連の作曲家の音楽作品や著作など）
③生涯音楽的音楽素材（県内各地域における特色ある文化施設や音楽活動，人材など）

このうち①伝統音楽的音楽素材は，「郷土の音楽」といったときに一般的に想定されるものであり，学校現場の実践においても民謡やわらべうたによる授業展開が一般的です。

②西洋音楽的音楽素材は，明治の洋楽黎明期から今日に至るまでの郷土出身の作曲家による唱歌などの音楽作品を指すものです。秋田県には、『浜辺の歌』の作曲者として有名な成田為三(1893-1945)，日本人として初のオペラ『羽衣』を作曲した小松耕輔(1884-1966)など，今日の日本の音楽文化隆盛に少なからぬ貢献をしてきた音楽家とその作品の数々が溢れています。作品の一部は教科書教材として長く歌い継がれているものもありますが，多くは芸術的価値や音楽的価値も見極められないままに，時代とともに忘れ去られているのが現状です。それらの中には，音楽作品としてばかりでなく，既存の教科書教材等に勝るとも劣らない教育素材としての可能性を秘めているものもあるでしょう。

③生涯音楽的音楽素材は，地域の文化施設や地元の音楽家などを教育資源の一つとして活用することです。それによって，学校の授業だけでは味わうことのできない音楽体験や，音楽科の限られた授業時数を補う効果が期待できます。

「地産地消」は，食育の取り組みの一環として提唱されている言葉であり，文字どおり地域で作られた農水産物を地域で消費すること及びその効用を意味しています。この取り組みでは音楽教育に地産地消の理念を援用し，「地域の音楽素材と地域のシェフ（音楽家）による『音育』の推進」について提唱していきます。

グローバル云々という文言が教育の世界においても頻繁に用いられるようになりました。そのため学校の音楽の授業でも，世界の諸民族の音楽やポピュラー音楽を取り入れた実践は，ごくあたりまえのものとなっています。また，日本の伝統音楽の実践については一定の定着がみられ，質的な追究も求められています。

しかしそれらの一方で，地域や郷土の音楽は近くて遠い存在となってはいないでしょうか。日本の伝統音楽や諸民族の音楽のよさを本当の意味で理解するには，その基盤に地域の音や音楽文化の理解がなくては，いびつな音楽観しか育たないでしょう。グローバリズムは嫌がうえでも押し寄せる潮流ですが，あまりにも勢いが強過ぎる流れであるためにローカリズムは押し流されつつあります。世界に目を向けた幅広い音楽観も必要でしょうが，それに加えて郷土，地域と，より狭く捉えた音楽観や実践があってもよいのではないでしょうか。

地域の音楽素材は，地域の生活に根差し，人々とかかわりながら発展してきたものです。過去と現在をつなげ，現在が未来につながり，人と人を結びつけるものです。音楽を媒介として地域や郷土を学び理解すること，すなわち「音楽素材の地産地消」は，地域の音楽文化を理解する子どもの育成にとどまらず，地域の音楽文化を形づくっていこうとする人間の育成が期待できるでしょう。